

## 三条市租税教育推進協議会長賞

### 税の必要性

三条市立大崎学園 九年 岡 おか ゆうり 優莉

「うわ、消費税こんなにかるんだ」

私は商品を手にとつて値段を見てがっかりしました。「正直、消費税なんていらんじやないかな。国の役に立っているとはいうけど、特に使われていない気がする」と、いつも思います。ですが、私自身、税についてほとんど分かっていなかったため、軽い気持ちで考えていました。そのため、税金のない暮らしを調べてみることにしてみました。

もし、日本に税金がなかったら、毎日使われている橋や道路は、傷がついてもそのままの状態にされる、犯罪の防止や交通安全の確保にあたつてくれる警察官がいなくなる、学校の建設や義務教育期間中の教科書の無料配布が行われない、お年寄りや体が不自由な人のための施設、医療機関の整備がされず、困ったときに頼ることができない、など多くのデメリットがあることに私は驚きました。税金なんて払いたくない、必要ない、と私を含めたくさんの人が感じていると思いますが、その分、私たちが当たり前に安全に過ごすことができるように社会に携わってくれているということに気付きました。

ナウル共和国は税金のない国です。リン鉱石の採掘によって栄えたため、医療費、教育費が無料になるなど、楽園のような国で

したが、それは二十世紀まででした。二十一世紀に入ると、リン鉱石の枯渇が進んで経済が崩壊し、国民のほとんどが職を失ったため、現在は、近隣先進国や日本からの援助に依存しているという状態です。税金がないことはうれしいことですが、それは一時的なものであつて確実なものではありません。やはり、国民全員が協力し合つて一人ひとりが負担をするからこそ、安全で自由のない社会が保たれているんだな、と感じました。

私はまだ若年層のため、働かずに学校でたくさん教科書やきれいな校舎を使って学習をしています。それは現役世代の人たちが支えていてくれるからです。「税は自分には関係ない」と思っていたけれど、三年後には私も現役世代となり、若年層と増加していく高齢者を支えていかなければなりません。なので、今のうちから税のことをもっとよく知り、少しでも意識していければいいと思います。また、税金についてまだよく分かっていない若者たちや税金を必要ないと思う人たちに、税金が社会を成り立たせてくれていることを伝えたいと思います。